

農林水産大臣賞受賞

受賞者 うつく くの さとちさとやまきょうぎかい 美しい久野里地里山協議会
(神奈川県小田原市)

【山林、里山、農地、川、水、人を一体として次代に残す「美しい久野」の創出】

1 取組の動機と背景

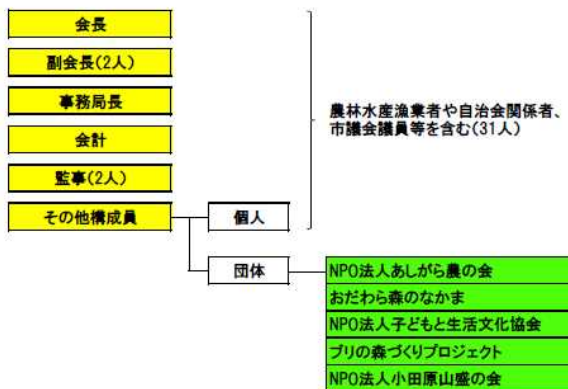
久野地区は、「小田原ふるさとの原風景百選」に選定された風光明媚な土地であるが、農林業者を含む地域住民の高齢化が進行し、放置され荒廃する農地や山林が増加していた。土地の荒廃は、農林地における病虫害や鳥獣害の増加だけではなく、人の目が届かなくなったことによる不法投棄の増加等の問題を引き起こしていた。このような課題を抱えていた久野地区において、平成18年度、行政の声がけを契機として地域住民の有志、県、市の関係者が一堂に会し、「久野地区里山勉強会」を発足し、久野地区の将来像とそのための取り組みを「久野地区の里地里山保全計画書」にまとめた。この計画を実現するため、勉強会に参加した有志が中心となり、平成21年度「美しい久野里地里山協議会」を設立し、「美しい久野」をつくっていくため、久野地区自治会連合会やNPO法人あしがら農の会、NPO法人小田原山盛の会等多くの関係団体と連携しながら、農林地や登山道、久野川溪流の整備を行い、人の目を行き渡らせることで、近隣農林地の荒廃や不法投棄を抑制するとともに、次代を担う子供達が自然環境について学べるようイベントを開催する等、様々な取り組みを行っている。

2 主なむらづくりの内容

- 放置されていた田約110a、畑（茶畑含む）約300a、樹園地約24a、合計約434aを再生して維持管理を続けることにより、荒廃化を防ぎ、病虫害や鳥獣害、不法投棄の抑制につなげている。また、協議会が整備し、農林地として再生したことにより、近隣の農林地所有者が自らの土地で耕作を再開する等の波及効果が生まれている。
- 協議会の事業分野は、農業だけに留まらず、林業、漁業や次代を担う子供達に対する環境学習を兼ねたイベントを一般市民と連携して開催している。特に、紅葉の里づくりや野遊び探検といった親子向けイベントでは、次代を担う子供達が自然環境について遊びながら学ぶ場となっており、市内外の参加者（年平均256人）が集まり、地域において重要な都市農村交流の場にもなっている。
- 久野地区から箱根に至る古道（昔の歩き道）を明星登山道として整備するとともに、久野川溪流の溪畔林及び散策道の整備を行っている。これにより、多くのハイカー等が久野地区を訪れることができるようになるとともに、山林深くまで人の目が行き届くようになったことで、不法投棄も減少している。
- 協議会は個人会員31人と団体会員5団体を抱えるほか、他の団体に参加して構成員も多いことから、会員間の情報の共有が効率よく行われ、このことにより関係団体は、協議会を通して活動に必要な人材や機材、情報、ノウハウ等を迅速に確保・共有している。

3 むらづくりの推進体制

【体制図】



【連携図】

